

# 阿蘇の牛舞

文化財保護委員 江入 鐵雄

(熊本県文化財保護指導委員)



▲永草子ども会の牛舞の様子

「阿蘇の牛舞」は、阿蘇地方に古くから伝わる民俗芸能です。農耕作業の過程を表現した郷土芸能で、現在では市内の子どもたちによって傳承されています。今回は、2つの牛舞を紹介します。

## 宮地の牛舞

宮地を中心とした一の宮町で舞われてきた牛舞は、阿蘇神社に奉納されてきたものです。この牛舞は春は豊作祈願、秋は豊年踊りとして、阿蘇神社の宮司である阿蘇家や、宮地の各地区を舞い回る習慣がありました。特に宮地の泉・牟田口・塩井川などでは古来より阿蘇神社の農事に深い関係があるとされ、昭和36年に県の重要無形民俗文化財に指定されました。しかし、次第に舞手となる青年が減ったことで後継者が不足するようになり、牛舞が舞われない状況が続きました。

その後、昭和56年に行われた沖縄県の小中学生との交流事業を機に、宮地小学校の児童や教職員により復活を遂げました。現在では同校のクラブ活動として、4～6年生の子どもたちによる「牛舞クラブ」が郷土

芸能の保存・傳承に取り組んでいます。

## 永草の牛舞

「永草の牛舞」は豊年を祝っての素朴な踊りです。

永草の牛舞も阿蘇地方に古くから伝わっていた芸能です。昭和53年にふるさとづくりの一環で永草の虎舞が18年ぶりに復活をした際、この牛舞も一緒に復活しました。この永草の牛舞と虎舞は昭和54年に旧阿蘇町の重要無形民俗文化財に指定され、その後、虎舞は他の地区の虎舞とともに県の重要無形民俗文化財に指定されました。

牛舞は、昔は田植え後の「さなぼり」祝いに村中の人が集まって行われていました。「さなぼり」とは田植えを終えた祝いで、昔から村の年中行事として、村中の人が集まって宴会をすることをいいます。現在では「さなぼり」は見られなくなりましたが、牛舞は永草子ども会が引き継いで繼承しており、11月23日に菅原神社での永草地区の祭り、「虎舞」とともに奉納されています。



宮地小学校牛舞クラブ